

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第756号 平成26年6月20日

## 無戸籍

5月21日に放送されたNHK番組「クローズアップ現代」は、極めて衝撃的なものでした。

「無戸籍」、これが21日の「クローズアップ現代」で取り上げられたテーマです。しかも、この「無戸籍」の子ども達は増え続けているという事ですから、事態は深刻です。

「無戸籍」に関しては、一人っ子政策を取っている中国で、黒子と称される「無戸籍」の子どもが存在する事は承知していましたが、日本国内にも、戸籍を持っていない人達が多数存在するという事は知りませんでした。全く、自分の不明に恥じ入るばかりです。

我が国では、戸籍法上、生まれた子どもは必ず出生届を出して戸籍を作らなければなりません（戸籍法第49条）。にもかかわらず、親が出生届を出さなかった場合には「無戸籍」者が発生する事になります。

その原因の一つは、いわゆる「300日問題」といわれているものです。この「300日問題」というのは、離婚後300日以内に生まれた子は、遺伝上の父親ではなく前夫の子と推定されてしまうというものです（民法第772条第2項）。こうした中で、母親が前夫との関わりを避けるために出生届を提出せず、結果、生まれて来た子が「無戸籍」になってしまったケースが多いようです。

NHKが県庁所在地等主要自治体にアンケート調査を行ったところ、回答のあった自治体の内9割を超える自治体で、出生届が受け付けられず無戸籍になっている人がいると回答しており、「無戸籍」者の数は、相当の数に上るのではないかと思います。

しかも、「無戸籍」の原因が、親の怠慢ではなく家庭内のDVという事になると、このままでは、今後も「無戸籍」者が生じる恐れが十分あります。

戸籍というのは、自分は一体何者なのかを証明してくれる土台であり、「無戸籍」のまま今の社会で生きて行く事は至難の業です。

戸籍がなければ、運転免許は取れませんし、アパートを借りるのも簡単ではありません。銀行の口座も作れませんし、就職もままならないはずで。

「無戸籍」の状態は、「無戸籍」その人には何の責任もありません。にもかかわらず、「無戸籍」の人々がその事で受けている被害は甚大です。

「クローズアップ現代」では、32年間戸籍がないまま暮らして来た女性を紹介していましたが、原因は母親が前夫から受けたDVで、前夫から逃げ出した後も自分の居場所を知られるのを恐れ、新たなパートナーとの間に生まれた子どもは出生届も出せないまま「無戸籍」になってしまったのだそうです。

新たなパートナーは、生まれた子を自分の子と認知しているのに我が子として出生届が出来ないというのは、非常にもどかしく感じます。

現行の民法は、明治時代に作られたものですが、今日では同性婚も認められる等家族の在り方が大きく変化して来ています。更に、親子関係も科学的に立証する事が出来る時代となりました。

こうした中で、「無戸籍」の原因が、家庭内のDVにあるにもかかわらず、「無戸籍」を解消するためには前夫の戸籍に入れるか、裁判で決着するしかないというのでは、如何にも現実感覚からずれているといわざるを得ません。

「クローズアップ現代」で紹介されていた女性の願いは「1日も早く普通の生活がしたい」というものであり、そのささやかな願いを叶えるためにも、現行法制度の見直しを早急に行って欲しいと思います。(塾頭：吉田 洋一)